

# 湊江小学校 外国語活動・外国語研究通信

第2号

令和3年5月

第2回目の研究全体会は、英語教育スーパーバイザーのスコット由起先生、英語教育アドバイザーの石光萌乃先生をお招きして、研修を行いました。

## 研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～



### 1 スモールトーク研修

アドバイザーの石光先生と奥田教諭による研修でした。「This is me.」(お互いを知ろう)をテーマに、石光先生、奥田教諭によるデモンストレーションを聞きました。その後、ペアでテーマに沿って会話をしました。話をして、うまく言えなかった表現について、児童と同じように全員で既習事項をもとに考える中間指導も入りました。

「教えるね」→「I'll tell you.」、「ところで」→「by the way.」など、会話をつなげる上でよく使う表現は、教科書に出てこないものでも教えてもよいのではないかと、というアドバイスをスコット先生からいただきました。

### 2 先進校から学ぶ

昨年度、草加市立氷川小学校の授業を見に行った深谷教諭からの報告でした。

<氷川小学校の取り組み>

- ・授業の流れを統一する
- ・最終活動(単元のゴール)を決める
- ・スモールトークの研究 1時間の授業の中で前半と後半2回、スモールトークを行う
  - ①既習の表現 ②本時で学習した表現
- ・『e-time』全学年 外国語に親しむ活動について
- ・英語集会 外国語を楽しむ集会

また、実際の授業の様子を動画で見ました。驚くほど全員が意欲的でした。発表している児童がとても堂々としていました。聞いている友達への投げかけ等もあり、また、聞いている児童も発表に対する反応もとてもよく、外国語への抵抗を全く感じませんでした。先進校の取り組みを参考にして、湊江小も児童が生き生き活動する外国語を目指していきたいという思いを共有しました。

### 3 還元研修

深谷教諭による、区の小学校外国語活動・外国語科研修(読むこと・書くこと)について伝達研修でした。

・「読むこと」は、中学年の外国語活動では「聞くこと」の中に位置づけられており、「文字の読み方が発音されるのを聞いて

て、活字体で書かれた文字と結び付ける活動」です。例えば、「A」と発音されたら「A」を指したり、「A」の教室を探したりするようなことを行ったりします。

・「書くこと」は、書き写すことと考えてよいです。書くときには、視覚情報がある中で行います。

「話す・聞く」で、音声に十分親しみ、意味を結び付けることを十分に行ったうえで、読んだり書いたりに移ります。

・アルファベットの指導においては、アルファベットの学習の流れにそって行っていきます。音と文字を結び付けるために、中学年からアルファベットジングルなどを活用していきます。教科書の後ろに添付されているアルファベットカードの色の意味も教師が理解しておくことが大切です。

赤→母音 青→有声音 黄→無声音、破裂音

\*その他、資料参照

#### 4 各学年、年間のエンドプロダクトを考える

各学年に分かれて年間のエンドプロダクトの検討を行いました。その後、検討している中で、出てきた疑問点について、スコット先生にアドバイスをいただきました。

(3年) 昨年度行っている内容を再びやるときに、どのようにアレンジしていったらよいのか。

→子どもの実態に応じて、時数を調整したり、場面を変えたりしていく。

(4年) 単元の順番を入れ替えてもいいか。曜日を取っている単元と時間を取っている単元をつなげたい。

→単元を合体させてもよい。指導案通りではなく、学校独自のアレンジを。そのためには、必然性が必要。

(5年) 目的意識・発表意識・意欲付けが難しい。特に道案内の単元が難しい。

→ALT、コンシェルジュを活用してください。

(6年) 絶滅危惧種の単元のエンドプロダクトや外国語を使う必然性の設定が難しい。

→教科書の内容選定で候補に挙がっていた、「食物連鎖」でやってみてほしい。

(4組) 絵本を積極的に使用していこうと思っている。なにかおすすめの本を紹介してほしい。

→教員オリジナルの絵本、児童自らが絵本を作る活動なども考慮に入れるとよい。

・1年間をかけて、エンドプロダクトの計画、実施、修正を行い、渚江小のエンドプロダクトの年間計画を作成していきます。